

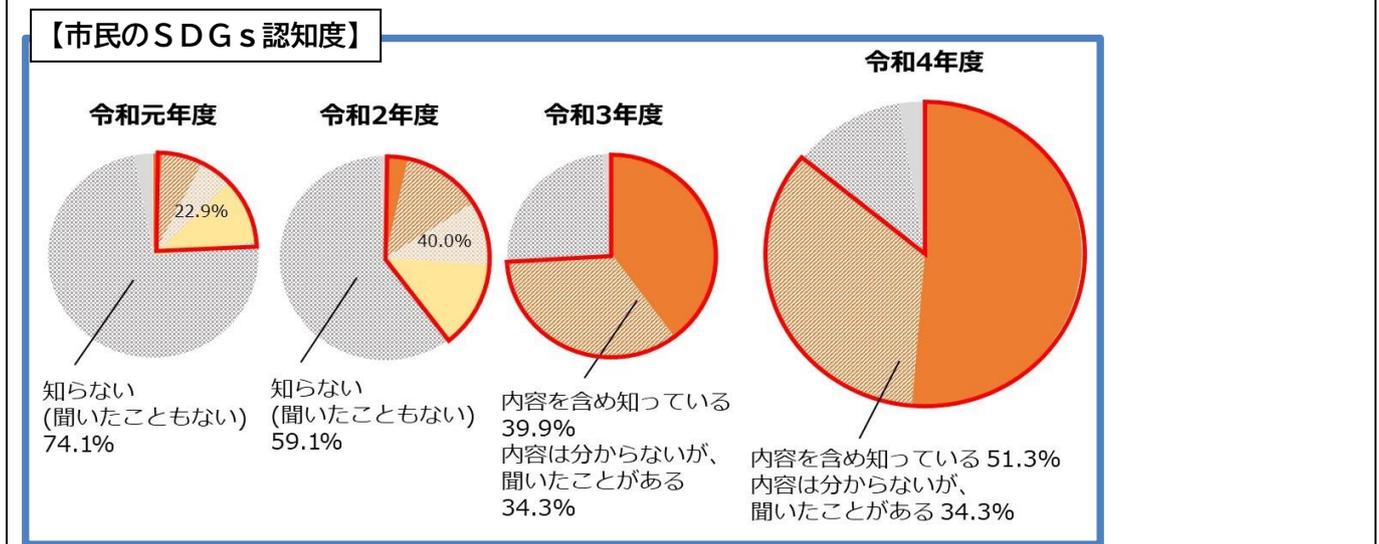
市区町村名	愛媛県松山市	担当部署	総合政策部企画戦略課
		電話番号	089-948-6943
		所属メール	kikaku@city.matsuyama.ehime.jp

1 取組事例名
松山市SDGs推進コンダクター ～大学生から広がるSDGsの輪～

2 取組期間
令和4年6月～（継続中）

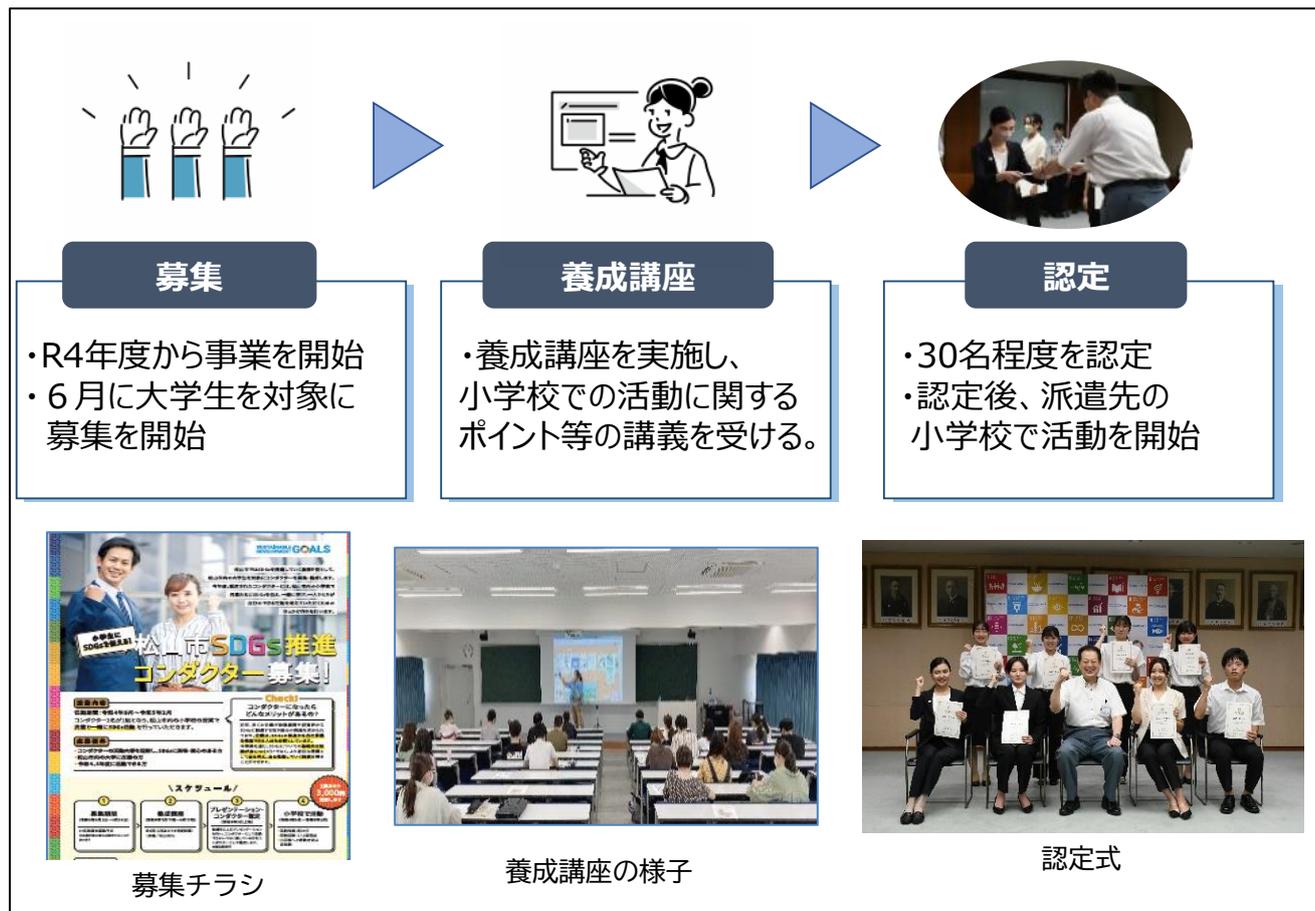
3 取組概要
<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な開発目標の旗振り役として、養成講座等の研修を受講した大学生を「松山市SDGs推進コンダクター」に認定し、小学校の授業でSDGsを伝え、一緒に学び、考えてもらう取り組み。 ・全校生徒50人未満の小規模校での持続可能な地域づくりの活動や、小学校低学年を対象にしたSDGsに関する授業を行う。

4 背景・目的
<ul style="list-style-type: none"> ・本市は、令和2年度に「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」の選定を受けたことをきっかけに、市民への周知・啓発や、松山市SDGs推進協議会を立ち上げ、市内事業者を巻き込んだ取り組みを行った。 ・市民のSDGs認知度は、令和元年度の22.9%から令和3年度には74.2%にまで上昇した。次のステップとしてSDGsの達成に向けた具体的な行動を市民に浸透させる必要があった。浸透にあたっては、課題や解決に向けた行動を自分事として捉え、自ら考え、動いてもらえる人が増えるなど、持続可能な行動の輪が広がっていくことが重要であった。 ・そこで、これからの未来を担う若い世代の行動を促すため、大学生が、SDGsを推し進める旗振り役として活動する「松山市SDGs推進コンダクター」事業を令和4年度から実施した。



5 取組の具体的内容

【SDG s 推進コンダクター認定の流れ】



- ・募集は、ホームページや広報紙等を活用して実施したほか、連携協定を締結している大学に協力いただき、SDG s に関心の高い大学生を募集した。
- ・養成講座では、SDG s についての基礎知識や小学校での教え方に関する講座、小学校の先生との交流会を実施。産・官・学・民・金など多様なステークホルダーが参加している「松山市SDG s 推進協議会」に登録している大学や企業が講師を務めた。

(1) SDG s アライアンス校での活動

- ・市内のSDG s アライアンス校（全校生徒50人未満の小規模校）8校に対し、コンダクターを4人程度のグループに分けて活動。
- ・各学校がSDG s につながる探究的な学習を一層推進するためのミッションを設け、その達成に向けて小学生と一緒に継続的な活動（5回程度）に取り組んだ。
- ・大学生は活動の中で、子どもたちにSDG s の視点を分かりやすく伝えたり、地域の素晴らしさを自分の言葉で具体的に伝えたりするなど、活動を通じてSDG s の行動の輪が広がる様子が見られた。

(2) 出前講座の実施

- ・小学校低学年を対象にSDG s の基本を伝える出前講座（授業）を実施。
- ・学級活動等の授業1時限を、コンダクターが先生として授業し、担任の先生はフォロー対応する。（「クラスごとに実施」と「学年まとめて実施」を学校が選択）
- ・授業は、教育委員会側から基本的な構成や資料の説明材料を提供したうえで、コンダクター自身が小学生により伝わる内容を考えてアレンジしながら実施。

アライアンス校での活動



出前講座での授業



6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- ・「知る」から「行動する」へSDGsの展開を検討する中で、これからの未来を担う若い世代が中心となって活動できる環境整備が重要と考え、「松山市SDGs推進コンダクター」の認定者は大学生限定とし、小学校での活動とすることで、若い世代が交流する機会を創出した。
- ・また、学習指導要領に「持続可能な社会の創り手の育成」が明記されたことで、SDGsの授業の必要性が高まった状況もあり、教育委員会との効果的な連携事業とすることができた。

7 取組の効果・費用

【取組の効果】

- ・小学生と年齢が近い大学生がSDGsを伝える役割を担うことで、円滑にコミュニケーションを取ることができ、次世代を担う子ども達のSDGsへの関心が高まった。また、SDGsの啓発に行政内部で人役を調達するのではなく、大学生を活用することで、より効果の高いものとなった。
- ・教える側の大学生は、これからの社会を担う人材として、SDGsを身近な課題として伝えることで、考えを深める機会につながった。
- ・SDGsアライアンス校の活動では、大学生も小学生とともに地域の良さを考えるとともに、地元との交流機会が生まれることで、シビックプライドの醸成につながった。
- ・継続的に活動する中で、民間事業者が実施するSDGsに関する取り組みに対して、コンダクターへ協力依頼があるなど、活動の輪に広がりが見られた。

SDGsに取り組む企業訪問を地元情報誌への掲載

SDGsイベントへの協力依頼 など

【費用】

- ・令和5年度 コンダクターへの報酬・事務委託等…約250万円

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・初めて募集した令和4年度は、学生の関心が読めず、養成講座の受講等の認定要件がある中で、参加してくれる学生がいるか不安が大きかった（結局、想定を超える応募者がいたことに驚いた）。
- ・多くの大学生は、小学生に向けて授業を行うことが初めてであり、最初の時期は時間配分などが難しい状況もあったが、先生方のフォローや大学生自身が授業内容を振り返り、改善につなげたことで、実施するたびに内容が向上していった。
- ・出前講座では、コンダクター1名で1クラスの授業を実施していたが、感染症の流行期には体調不良等での急遽の調整対応が必要になることもあった。

9 今後の予定・構想

- ・引き続き、小学校と連携を深めながら、活動を展開していく予定である。
- ・今回の事業のように、市が調整役となり、市民が主体的に取り組むことができる環境を作ることで、持続可能な活動が広がるような流れを作っていきたい。

10 他団体へのアドバイス

- ・現在の大学生は、SDGsについて学び、将来に向けて取り組む必要性を強く実感している世代のため、参加してくれている学生の意識はかなり高い。
- ・SDGsの達成に向けた行動を促すためには、市が旗振り役になるのではなく、調整役になったほうが高い効果を得ることができると思われる。今回のコンダクター事業は、これからを担う大学生が中心となって活動することで、小学校や地域からの理解が得られ、SDGsの輪の広がりにつながっているため、他自治体でも参考にいただければと考えている。

11 取組について記載したホームページ

- ・松山市ホームページ「松山市SDGs推進コンダクター事業」
https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/keikaku/SDGs/SDGs_conductor/sdgsconductor.html